

「親子記者」決定！

親子記者新聞

発刊準備号

発行者

日本非核宣言自治体協議会
(にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい)
〒852-8117
長崎市平野町7番8号
長崎市平和推進室内
電話 095-844-9923
FAX 095-846-5170
E-mail info@nucfreejapan.com
Homepage http://www.nucfreejapan.com



当選者を発表する田上富久会長 ー長崎市平野町

六月五日午後、日本非核宣言自治体協議会は、長崎市平野町の長崎原爆資料館で、親子記者事業の参加者を決める抽選を行いました。

親子記者事業には、全国から三百八十五組の応募があり、同協議会会長の田上（たうえ）富久（とみひさ）長崎市長が、応募者の名前が書かれたカードを、一枚ずつ順に抽選箱から抜き出して選ばれたのが十組の親子記者です。

最初のカードは、東京都在住の鈴木夕海（ゆうみ）さん、夕子（ゆうこ）さん親子。市長が電話で直接当選したことを伝え「八月の長崎は平和に関する行事がたくさんあります。ぜひそれら取材してください。長崎でお会いできるのを楽しみにしています。」とエールを送りました。

親子記者十組は、八月八日から十日まで、市民への

全国から二百八十五組の応募 鈴木夕海さん親子（東京都町田市）ら十組選出



応募者に当選を伝える

平和活動の取材や、被爆者へのインタビュー、被爆遺構を巡る取材などの後、記事をまとめます。

また、平和祈念式典などの平和に関する行事に参加し、それぞれのまちに戻った後、市長や区長への報告が予定されています。

田上市長は「これからしっかりと準備して参加者のみなさんをお迎えしたい。子どもたちを通して日本中に長崎の願いや思いを伝えたい」と話しました。

鈴木夕海さんは、地域で開催されている被爆者の講話を聞くうちに、戦争や原爆に関心を持つようになり、これまで実際に広島や長崎へ行く機会がなく、今回はぜひ参加したいと思い応募したそうです。

参加が決まった後、夕海さん自身も本で調べていくうちに、ますます戦争が怖くなったと言います。夕海さんは、「戦争は怖いと思うけど、学校のみんなに平和の大切さを伝えるためにも長崎へ行きたい」と話してくれました。

母親の夕子さんは、小学生の夕海さんに、悲惨な被爆の状況を伝える展示を見せる不安もあると言います。しかし、この経験が夕海さんにとってプラスになり、成長してくれるのだと期待しています。

早く長崎へ行きたい



親子記者に選ばれた鈴木夕海さん

「親子記者」当選者（敬称略）

- 東京都町田市 鈴木 夕海（6年）
- 愛知県稲沢市 内藤 由莉那（4年）
- 大阪府箕面市 富原 綾乃（2年）
- 千葉県松戸市 夏目 拓真（3年）
- 東京都中野区 小野 泉海（2年）
- 京都府宇治市 田畑 のぞみ（5年）
- 大阪府寝屋川市 中村 菜乃花（5年）
- 千葉県松戸市 曾我 龍宇一（6年）
- 山梨県甲州市 前田 利佳（4年）
- 大阪府枚方市 野田 紗朱（3年）

平和を探しに長崎へ行こう

長崎は、江戸時代に外国との交通や貿易を禁止した鎖国政策のもと、海外に開かれた日本の窓口として、外国文化を受け入れながら発展しました。開国後も西欧の進んだ技術や文化が流れこみ、多くの外国人が長崎に住むようになりました。また、新しい知識を学ぶために多くの日本の若者も集

まり、交流のまちとして栄えていきます。その後、造船のまちとして発展してきました。

昭和二十年八月九日、午前十一時二分、人類史上二発目の原子爆弾が長崎へ落とされました。長崎のまちは一瞬のうちに破壊され、約十五万人の市民が亡くなった。約一ヶ月が経ちました。

長崎原爆資料館の近くには、原爆で被害を受けた建物や、亡くなった方々を慰霊する碑がたくさんあります。毎年、多くの小学生が修学旅行などで訪れ、平和について学んでいます。平和を学ぶための行事もたくさん行われています。



親子記者は長崎のまちを歩いて、平和の取り組みを探しに行きます。



親子記者を歓迎します

長崎原爆資料館の多良（た）館長から親子記者を歓迎するメッセージをいただきました。

『親子記者の皆さん、八月の取材では、ぜひ長崎原爆資料館を訪れてみ

てください。資料館には、被爆した物や原爆の惨状を伝える写真をたくさん展示しています。原爆の恐ろしさと、平和の大切さを取材し、学校のお友達や、地域の皆さんにお伝えください。』



多良館長

長崎の八月は大変暑いので、体調に注意してください。みなさんにお会いするのを楽しみにしています。』

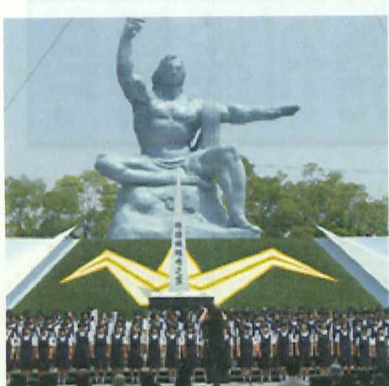
平和の灯

八月八日の夜に、手作りのキャンドルを灯し、平和の泉でコンサートを行います。平和の尊さについて、ひとりひとりが考えます。



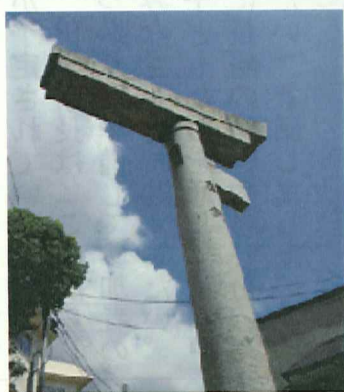
平和祈念像

平和祈念像は、原爆にあつたかたの慰霊（いれい）と、平和を誓うため、昭和三十年に平和公園内に建てられました。作者は、長崎県出身の彫刻家、北村西望（せいぼう）さんです。毎年八月九日には、平和祈念像の前の広場で平和祈念式典が開催され、国内外から多くの人が集まって平和への誓いを新たにします。



山王神社・二の鳥居

爆心地から約八百メートルのところにあります。原爆の爆風のため、鳥居の片方が吹き飛ばされましたが、残った片方は現在も一本の柱で立っています。鳥居の一部は高温の熱線で黒く焼けています。



ほっと一息

わたしは「チリンチリンアイス」。甘すぎず、あつさりした味と百円という値段は、蒸し暑い長崎の夏にはぴったり。屋台といえばラーメンやたこ焼きが定番だけど、長崎ではチリンチリンアイスが大人気。平和公園や原爆資料館の前で屋台を見かけたら声をかけてね。お願いすれば、バラの花びらの形にしてくれるよ。



「ひかきょう」と呼んでください

非核宣言自治体とは、こうした宣言を行った自治体のうち、核兵器廃絶などを求める宣言を行った、日本全国の自治体（都道府県や市区町村）のことです。全国千八百以上ある自治体のうち、千四百を超える自治体が宣言を行っています。

日本非核宣言自治体協議会では、核実験（かくじっけん）に対して抗議活動を行ったり、日本全国で原爆の写真を展示する原爆展を行ったり、ホームページで平和に関する情報の発信などを行っています。



事務局だより

今回の親子記者事業では、四月から五月まで、全国の非核協議会自治体にお住まいの小学生とその保護者を対象に参加者の募集を行いました。応募数は三百八十五組と予想を大きく上回りました。今回残念ながら当選されなかったみなさんは、次の機会のご応募をお待ちしています。今回の募集を通して、



親子記者の取材を応援する事務局メンバー